

Ⅲ 学力状況の概要

(1) 全国比較（全国の平均を100とした場合の亀岡市の割合指数）

小6	亀岡市 正答率	全国 正答率	全国比較 (割合指数)	中3	亀岡市 正答率	全国 正答率	全国比較 (割合指数)
国語	65	66.8	97.3	国語	53	54.3	97.6
算数	56	58	96.5	数学	46	48.3	95.2

小6	亀岡市 正答率	全国 正答率	全国比較 (割合指数)	中3	亀岡市 IRT スコア	全国 IRT スコア	全国比較 (割合指数)
理科	57	57.1	99.8	理科	504	503	100.1

ア 平均正答率は、小6、中3ともに、国語及び算数・数学において全国の数値を下回る結果となった。理科については小6で全国と同等、中3はIRTスコアで全国を上回る結果となった。

イ 小6国語の内容別平均正答率では、「B書くこと」「情報の扱い方に関する事項」については全国の数値と同等、その他の内容について全国値を下回る結果となった。

ウ 小6算数の領域別平均正答率では、「C測定」は全国値を上回ったが、その他の領域では平均正答率が全国の数値を下回る結果となった。

エ 小6理科の領域別平均正答率では、「A粒子を柱とする領域」において全国値を上回っており、「Aエネルギーを柱とする領域」「B地球を柱とする領域」については全国値と同等の結果となった。「B生命を柱とする領域」については全国値を下回る結果となった。

オ 中3国語の内容別平均正答率では、「B書くこと」「C読むこと」については全国値と同等の結果となったが、それ以外の内容については全国値を下回った。

カ 数学については全ての内容・領域において全国値を下回る結果となった。

※中学校理科のCBT実施とIRTスコアについて

ア 中学校理科は、ICT端末等を用いたオンライン方式「CBT」で実施された。問題は生徒1人あたり、公開問題10問と非公開問題16問を出題している。公開問題には全日程に共通する問題（全6問）と実施日別の問題（各実施日4問）があり、非公開問題は幅広い内容・難易度等から生徒ごとに異なる問題が出題されている。

イ IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論である。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じ尺度で比較することができる。IRT実施のメリットとして以下の3点があげられている。

- ・調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ・今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ・学力の経年変化を各教育委員会、学校でも把握できる。

ウ IRTスコアとは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、5

00を基準にした得点で表すものである。IRTバンドとは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもので、3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。非公開問題は、国や自治体等の状況を把握することを主目的とする出題のため、個々の問題の内容や正誤はフィードバックされないが、IRTスコア・IRTバンドの算出には使用されている。

文部科学省『令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRTを用いた結果返却について』を参照

(2) 各学年教科別の特徴的な問題例（数値は平均正答率を示す）

ア 正答率の高かった問題

小6 国語	問題番号2二 B 書くこと 「思考・判断・表現」 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる	選択式	市 80.7 国 81.8
	問題番号3二(1) C 読むこと 「思考・判断・表現」 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる	短答式	市 80.4 国 81.6
小6 算数	問題番号3 (4) A 数と計算「知識・技能」 異分母の分数の加法の計算をすることができる	短答式	市 87.9 国 81.3
	問題番号4 (1) A 数と計算 C 変化と関係 D データの活用「思考・判断・表現」 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる	選択式	市 81.8 国 82.8
小6 理科	問題番号1(1) B「地球」を柱とする領域 「思考・判断・表現」 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる	短答式	市 81.1 国 79.5
	問題番号2(3) A「エネルギー」を柱とする領域 「知識・技能」 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている	短答式	市 81.4 国 78.0
中3 国語	問題番号1二 B 書くこと 「思考・判断・表現」 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる	選択式	市 81.5 国 82.5
	問題番号3二 C 読むこと 「思考・判断・表現」 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる	短答式	市 91.0 国 89.9
中3 数学	問題番号7(1) D データの活用 「知識・技能」 必ず起こる事柄の確率について理解している	短答式	市 75.0 国 77.4
	問題番号8(1) C 関数 「知識・技能」 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取るすることができる	選択式	市 70.2 国 71.9

中3 理科	問題番号2(2) 「エネルギー」を柱とする領域 「知識・技能」 ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いている	選択式	市 95.0 国 94.6
	問題番号4(2) 「粒子」を柱とする領域 「知識・技能」 火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いている	選択式	市 92.6 国 92.8

イ 正答率の低かった問題

小6 国語	問題番号3二(2) C読むこと 「思考・判断・表現」 資料を事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる	選択式	市 47.6 国 51.3
	問題番号3三(1) C読むこと 「思考・判断・表現」 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる	選択式	市 39.9 国 40.8
小6 算数	問題番号3(2) A数と計算 「思考・判断・表現」 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる	記述式	市 24.3 国 23.0
	問題番号3(3) A数と計算 「知識・技能」 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる	短答式	市 28.3 国 35.0
小6 理科	問題番号2(1) A「エネルギー」を柱とする領域 「粒子」を柱とする領域 「知識・技能」 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている	選択式	市 8.2 国 10.6
	問題番号3(4) B「生命」を柱とする領域 「思考・判断・表現」 レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる	記述式	市 30.3 国 29.9
中3 国語	問題番号2四 A話すこと・聞くこと 「思考・判断・表現」 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる	記述式	市 22.0 国 23.2
	問題番号3四 C読むこと 「思考・判断・表現」 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる	記述式	市 16.1 国 17.1
中3 数学	問題番号4 C関数 「知識・技能」 一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができる	短答式	市 27.1 国 34.7
	問題番号6(2) A数と式 「思考・判断・表現」 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる	記述式	市 21.3 国 25.7

中3 理科	問題番号2(1) 「エネルギー」を柱とする領域 「思考・判断・表現」 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる	記述式	市 9.0 国 14.0
	問題番号8(2) 「地球」を柱とする領域 「思考・判断・表現」 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できる	記述式	市 23.0 国 18.1